

## ❖心理動詞の考え方と問題点

この章では、前章で分類した6グループの中でも、主にいくつかの心理動詞、および、その興味深い特性について検討していきます。

前章で述べたように、心理動詞とは、私たちの頭の中（そして心の中）で起こっている出来事に関わる動詞です。下位区分としては、知覚、嗜好（好き / 嫌い）、知識、そして欲求を表す動詞がここに属します。

心理動詞の考え方、そしてさらに、心理動詞が行動動詞とどのように異なるか（これら2つは混同しやすい場合がある）をはっきり理解することにより、次のような疑問に対する答えが、より明らかになるでしょう。

- 日本語では、「愛している」「忘れてる」なのに、なぜ英語では、“*I am loving ...*”, “*I am forgetting ...*”と言えないのか。
- “*I think ...*”と“*I am thinking ...*”は、*think*の意味が違うようだが、どのように異なるのか。
- 上の *think* のように、同じ動詞なのに、単純時制と進行時制では、日本語に訳すと異なる動詞になる場合があるのはなぜか。

## ❖“*I love ...*” vs. “*I am loving ...*” = 「心理」対「行動」

誰もが学校で、ふつう“*I am loving him.*”とか“*I am seeing the mountains.*”とは言えないと教わります。*love* や *see* はふつう、進行形では用いられない動詞だからです。また、“*I am thinking you are nice.*”とも、ふつうは言えません。

これは、これらの動詞が、目に見える動きを伴わない「心理動詞」であることの当然の結果です。

しかし、次のように、まったく同じ動詞だったり、意味が似ているのに、進行形で用いられる動詞が存在します。

***I'm thinking.*** 私は考え事をしている。

***I'm looking at him.*** 私は彼を見ている。

いったい英語はどうなっているのでしょうか？ この事情を順を追って述べれば、次のようになります。

- (1) 英語には、「心理動詞」が存在する。これらは進行形では用いられない。
- (2) それらには、意味的に対応する「行動動詞」が存在する。しかし、こちらは進行形で用いることができる。
- (3) これらの対応関係は、異なる動詞になる場合もあるし (“*I see him.*” (彼が見える) vs. “*I'm looking at him.*” (彼を見ている))、同じ動詞が用いられることもある (“*I think you are nice.*” (あなたは素敵だと思う) vs. “*I'm thinking.*” (考え事をしている))